

高橋地区と松平地区にスポット 第16回平和リレー講座の見どころ

1. 模擬原爆で家屋焼失跡地(豊田市渡合町)

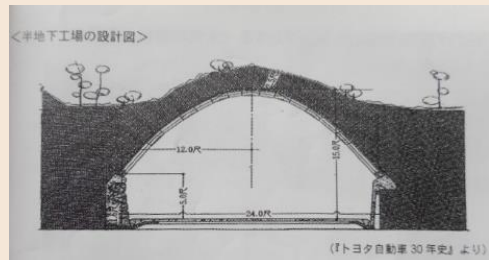
終戦前日 1945年8月14日にトヨタ本社工場を狙った模擬原爆2発目は目標から大きく外れ矢作川の河床に落下。爆弾の破片が両岸の集落に飛び大きな被害が出た。高橋村下渡合(現豊田市渡合町5丁目)の観音院を含む12戸の農家が全焼した。また、少なくとも1人の朝鮮人が犠牲になった。

観音院の「観音菩薩像」は近所の人に運び出され消失をまねがれた。



2. 半地下疎開工場の跡地(御立町)

米軍機の本土攻撃が始まりトヨタも爆撃に備えた工場疎開。高橋工場(高橋村御立古瀬間)はトヨタ駐屯の中部隊や朝鮮人労務者の手で、ほぼ計画通り完成した。トヨタ自動車30年誌によれば5万坪の敷地に建家は半地下式になっていた。右図は半地下アーチ型木造の建家断面。



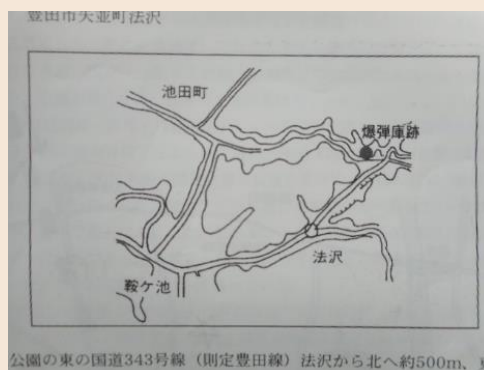
3. 岡崎空襲の余波で犠牲者(豊田市広川町)

岡崎空襲の日(1945年7月20日深夜)、高橋村洪川(現豊田市広川町)でも米軍により焼夷弾攻撃を受けた。これまでの豊田市の文献で「焼夷弾で数件の家屋が全焼、この時の火災で犠牲者が出ている。」とされていたことが2006年の平和リレー講座の調査で「子供5人を含む2家族8人を含む犠牲者」が明らかになった。民家数件が全焼したその付近に当時の竹やぶが残っている。



4. 矢並陸軍弾薬庫の疎開跡地

豊田市矢並町法沢に陸軍弾薬庫疎開地があった。陸軍兵士や勤労働員隊により山に面する崖に横穴が掘られた。矢並町内にはいくつかあったが住宅開発や高速道路開発などで取り壊された。右図は「愛知の戦争遺跡ガイド」(1977年)愛知県戦争遺跡研究会編の地図と弾薬庫入口の写真。



5. 松平の B29 墜落跡地

1945年1月3日にB29の編隊の1機が日本軍の戦闘機に体当たりされ松平村(現豊田市坂上町)に墜落した。B29の搭乗員の10名は死亡、パラシュートで降下の1名は捕虜となった。10名は地元の人々により荼毘にふされた。後に「B29の里」として保存活動がされている。

